

放課後児童クラブの指導は2人以上の体制で維持

—三浦市議の質疑に担当課長が確約しました—



日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
岡野長寿
(0845-22-2596)
三浦とおる
(0848-48-5044)

10月8日、決算特別委員会冒頭で、岡野長寿市議が今岡代表監査委員に、三浦とおる市議が民生費の決算審査で放課後児童クラブの指導員体制のあり方について質疑を行いました。

監視カメラより人の力が大事では？

三浦市議は、放課後児童クラブの運営・指導体制について質問をしました。「安全・安心として犯罪防止や事故防止のため児童クラブ内に監視カメラの設置を行なっているとなつていて、カメラを設置することで事故が防止できるのか」と質しました。それに対して理事者側からは

「事故等の検証のためのカメラである」と説明をしました。三浦市議は「事故防止のためというのであればカメラの設置よりも先に人員の配置が適切ではないか」とまた、「子どもからの聞き取りも大切にして欲しい」と教育的配慮を求めました。

国は指導員枠・資格を緩和、市はどうする？

三浦市議は、来年度から国が始める放課後児童クラブの設置基準の見直し案である人員削減計画について質しました。

「現在の尾道市における放課後児童クラブは1クラス2人から3人で運営をおこなっている状況にあるが、来年度から国の基準の見直しが始まった場合には尾道市はどのように対応しているのか」と質しました。

夏休みの指導体制は大丈夫なのか？

毎年、夏休み期間に申し込みが集中する放課後児童クラブの運営体制についても質していただきました。「夏休み期間に申し込みで入れない子どもがいるのか」と質したところ「場所や人員

の確保が難しく入れない子どもがいる」と事実を認めたので、全員が利用できる環境作りを強く求めて、夏休み期間の運営で保護者の方々の希望に添えるように努力するように申し入れをしました。

「格差社会、貧困対策は大きな社会問題、尾道市も研究を」—岡野市議の質疑に今岡代表監査委員が認識を示す—

1 個人市民税が伸びない背景には成長がでない国にしてしまつた政府の失政があるのでは？との問いに、監査委員は「納税義務者の減少、少子高齢化が影響」と述べつつも、格差社会、貧困対策の実施の必要性を強く感じている答弁を行いました。

2 保育の民間委託増加は保育責任を曖昧にするのでは？との問いに「民間活力を活用しながら子育て環境充実に努力」「単に管理手法を私に移行したものではない」と強調しました。

3 正職員が減少し臨時職員で補われる手法に問題有りと問いに「職員が生きていく環境を整備が必要」「新たに会計年度職員が制度化され、今後の状況を見守りたい」と答弁。

4 国保の軽減の必要性について、「国が国保制度について、国保加入者が所得水準が低く、保険料の負担が重いという構造的な問題について認識を示している以上、保険料の負担軽減については国の責務として対応して頂くべき課題と考えている」と表明。国に第一義的な責任があるにしても、市が何もしないで良いはずはなく、この点についての言及はありません。

5 基金を有効に活用すべきとの問いに、県内各地と比べて問題なしとの認識。

6 市民の合意形成なしの大型事業執行（庁舎建設）には、市議会の承認を得て進めたことを免罪符に、特にコメントすべきことはない。

みうら君の生活一口メモ 中高生のスマートフォンの所持はどうする

皆さんお元気ですか さて、先週のお題は、高校生にスマートフォンを持たせることの是非について考えていきましたね。スマートフォンは約8割の高校生が所持をしているとの統計もあります。ラインやツイッター等のツールも若者のコミュニケーションツールとして定着しています。それでは皆さんの意見を記述します。

スマートフォンは危険性です。まず、ラインやツイッター等での「いじめ」や「仲間外れ」が報告されています。また、スマートフォンへの依存症も医学界から警鐘があり、使い方を間違えうと、犯罪に巻き込まれる可能性もあるのです。よくよく考えていく必要がある（市民）

スマホは必需品だと思えます。社会の構造も大きく変化してきて、趣味の世界では無くなつてきています。使いたいスキルが求められるようになってきたと感じます。社会的なルールを守って使用することは問題ないと思います。持たせるべきです。（大学生）

二人の方から、意見を頂きました。皆さんどのように思われましたか？いづれにしても、危険性や先進性について、家族の中でしっかりと話し合いをして決めていくことが大切であると私は感じました。ルールを決める。危険性も知る。そして正しい使い方を知っていくことが必要であると思えます。